

## ところ会 11 月行事案内

### 江戸城三十六見附を歩くーその4最終回（半蔵門駅～大手町駅）

江戸城三十六見附探訪の最終回です。最後は江戸城に入り天守台、東御苑を回って帰りましょう。

#### 記

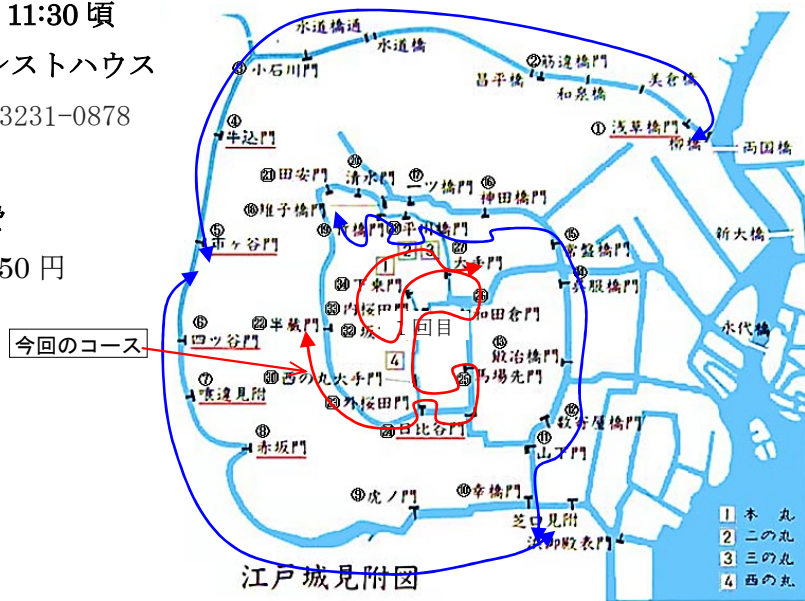
- 日 時：平成 29 年 11 月 22 日（木）  
8:45 池袋行きホーム前方に集合して下さい。

- 見学場所及び時間：コース全長約 8.5km

所沢駅(8:50)準急元町行 .....渋谷乗り換え...半蔵門駅(9:53)  
 ⇒半蔵門⇒外桜田門⇒日比谷門⇒馬場先門⇒昼食:楠公レストハウス  
 ⇒西の丸大手門（西の丸玄関門：二重橋）⇒坂下門外の変跡  
 ⇒坂下門⇒内桜田門(桔梗門)⇒和田倉門⇒大手門⇒三の丸尚蔵館  
 ⇒大手三の丸門(下乗門)⇒百人番所⇒大手中之門⇒中雀門  
 ⇒松の廊下跡⇒富士見多門櫓⇒天守台⇒北桔橋門⇒二の丸・三の丸  
 ⇒大手門⇒大手町（丸の内線）池袋駅.....所沢（予定時間 16:30 頃）

- 昼食：11:30 頃  
楠公レストハウス  
☎03-3231-0878

- 交通費  
約 1050 円



① 北桔橋門 ② 西の丸玄関門(二重橋) ③ 中之御門 ④ 中雀門

今回は半蔵門駅からのスタートです。

＜②半蔵門＞城の西端に位置し、甲州街道への入口に当たります。大手門とは正反対の位置にあり、有事の際の退路となります。この麹町\*最終頁参照大通り（甲州街道）沿い一帯に旗本屋敷を配備して防備を厳重にしました。

かつては渡り櫓がありましたが明治4年に撤去され、高麗門だけとなりました。その高麗門も戦災で焼失し、現在の高麗門は、関東大震災後に解体・保存されていた和田倉門が移築されたものです。

この門内は、江戸時代には吹上御庭と呼ばれ、隠居した先代将軍や、将軍継嗣などの住居とされていました。天皇及び内廷皇族の出入口となっており、皇居に一番近い警備は厳重です。

この門の警固を担当した服部半蔵の部下（与力 30 騎、伊賀同心 200 名）がこの門外に組屋敷を構えたので「半蔵門」の名が付いたといわれています。

山王祭の山車の象が大きかったので半分しか入らなかったという説もありますがこれは？です。

＜③外桜田門＞桜田門の枡形門は、大正 12 年の関東大震災で破損したため鉄筋コンクリート造りで復元したのが現在の桜田門。

桜田門外の変：万延 3 年（1860）水戸藩を脱藩した浪士 17 名と薩摩藩を脱藩した浪士 1 名の計 18 名が、桜田門外で登城する井伊大老襲った事件は、幕府の権威失墜だけに及ばず、徳川幕府崩壊への序章となった。

安政の大獄で評判の悪い井伊大老だが、開国を進めた人物として近年評価が見直されています。



半蔵門から桜田門に向かう途中に「柳の井」がある。内堀通り反対側の井伊家上屋敷門前にあった「桜の井」と並んで名水として知られ、江戸の人々に親しまれたといひます。

<⑭日比谷門>外桜田から祝橋祝田橋交差点を渡る。江戸時代には、この祝田橋は無かった。日露戦争の戦勝を祝い、皇居外苑を縦断する凱旋道路



が作られ祝田橋が出来た。そして分断された日比谷濠の西側は、凱旋濠と呼ばれるようになった。



日比谷公園内にある櫓台は昔の日比谷門を想像するのは困難だが、日比谷公園の心字池が山下門につながる濠で、濠の石垣が城内になる。

<⑮馬場先門>将軍家光が朝鮮特使団の曲馬を門内の馬場で見たことから朝鮮馬場と呼ばれ、それが馬場先と呼ばれるようになったことが名前の由来。枅形門完成時には橋は架けられなかった。そのため門が開くことはなく不開門(あかずのもの)とも呼ばれていたが、明暦大火で焼失・再建をきっかけに橋が架けられ、通行できるようになった。



日露戦争戦勝祝賀会の提灯行列で、熱狂した人波は馬場先門に殺到したが、枅形門を右折しなければならないため、20名の死者を出す大惨事となった。この事故によって馬場先枅形門は撤去され、明治39年に凱旋道路となった。

昼食：楠木正成像のそばに楠公レストハウスがあり、ここで昼食です。日替わり定食 1000円(税込)他：ドリンクバー付き  
テーブルが指定されるのでまとめてチケットを購入手下さい。

<⑩西の丸大手門>江戸城西ノ丸は家康の隠居所として築造されたが、家康が駿府に移ってからは将軍世継ぎの居城となった。慶長19年最初に西の丸下乗橋(二重橋)が架けられ、十年後に西ノ丸大手橋が架橋された。



西の丸大手門には、通称「眼鏡橋」とも呼ばれる「皇居正門石橋」を渡って入る。江戸時代は木橋であったが、明治20年に、現在の石造りのアーチ橋に架け替えられた。



<⑪西の丸玄関門>右の写真は正面石橋越しに望む「伏見櫓」です。伏見櫓は皇居を代表する櫓です。その手前にもう一つの橋が架かっている。こちらが正しい二重橋であり、現在は「正面鉄橋」と呼ばれています。ここは濠が深いので、江戸時代は橋桁を上下二重に組み、橋の上に橋を造ったので「二重橋」と呼ばれていました。しかし現在は鉄橋に改修され、一重の橋となっています。正面鉄橋の先に西の丸玄関門がありますが外からは見えません。



西の丸玄関門



正面鉄橋

<⑫坂下門>江戸時代は、高麗門と櫓門からなる枅形形式で、高麗門から入ると左に曲がって櫓門をくぐる形でした。

しかし明治21年に高麗門は撤去され、櫓門の角度を90度変え、正面に向きを変えて建てなおされました。一般参賀は西の丸大手門から入りこの門から出ます。



渡り櫓

高麗門

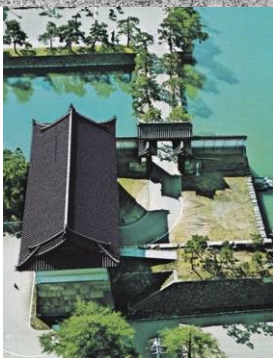


**坂下門外の変**：坂下門外にて、尊攘派の水戸浪士6人が老中安藤信正を襲撃し、負傷させた事件。老中安藤信正は、井伊直弼の後を継ぎ、公武合体政策を進め、皇女和宮降嫁を実現させました。しかし**桜田門外の変**が起きた2年後に再び幕閣が襲われる事件が発生したことで、幕府の権威失墜は加速していきました。

＜③③内桜田門（桔梗門）＞江戸城を最初に築いた太田道灌の泊舟亭があったと伝えられ、その門の瓦にあった道灌の桔梗家紋が門名の由来となり、現在の桔梗門の鬼瓦にも桔梗紋が刻まれている。



内桜田門の枡形の蛤濠側に仕切り土塀がないのは、枡形に侵入した敵兵を濠に追い落とす**武者落とし**として、さらに濠向かい側から攻撃援護するために塀を設けない構造である。



**桜田異櫓**：内桜田門から桔梗濠沿いに歩くと、二重櫓が建っている。本丸から見て東南（辰巳）の角にあることから異櫓、桜田異櫓あるいは桜田二重櫓と呼ばれている。江戸城には19個の櫓があったが、現在残るのはこの**桜田異櫓**、**伏見櫓**と**富士見櫓**の3つだけである。

＜②⑥和田倉門＞和田倉門は蔵の御門とも呼ばれ、士衆通行の橋とされていた。和田「わた」とは海の名称で「わたつみ」と同じ意義で、倉が並んでいたの**和田倉**と呼ぶようになった。



江戸湊からの船荷を道三濠の辰ノ口で荷揚げして和田倉で集積保管していた。

渡櫓は関東大震災で大きな被害を受けて解体された。高麗門も解体・保存され、戦後に半蔵門に移築された。



和田倉橋は関東大震災で門と共に大きな被害を受け、以前の木橋を模し

て再建された。鉄筋コンクリート製だが、欄干は木製で、擬宝珠は元の橋のものを使用している。

＜②⑦大手門＞大手門は江戸城の正門で、登城する諸大名は、この門から三の丸に入った。すなわち、城郭に備える搦手門（半蔵門）に相対する追手門（大手門）です。

大手門の門前には「下馬」と札が立ち、大名、役高500石以上の役人、高家、交代寄合など、「乗輿（じょうよ）以上」の資格を持つ者以外は、ここで馬や駕籠から降りなければいけなかった。

渡櫓は関東大震災で倒壊。修復されたが、次は昭和20年の空襲で焼失。現在の渡櫓は、昭和41年に、東御苑開園に伴い再建された。

**三の丸尚蔵館**：展覧会「明治美術の一断面－研ぎ澄まされた技と美」を開催中、見学しましょう。

＜③④大手三の門（下乗門）＞大名などの登城ルートは、大手門と内桜田門（桔梗門）から入ると定められていた。どちらの門から入っても、大手三の門に至りその後中之門、中雀門を経て本丸御殿へと入った。大手三の門は三方を多聞櫓で囲む江戸城唯一の門で、門の前には**二の丸と三の丸を分ける濠**があり、**下乗橋**という橋が架かっていた。この濠は大正8年に埋められ、現在は石垣だけが残っている。この門の手前に**下乗**の札が立ち、徳川御三家と日光門主を除き、全員駕籠を降り、この先は徒歩での登城となった。大手三の門の枡形を抜けて二の丸に入ると、広場の左に**百人番所**、右奥には巨大な**大手中之門**が見える。



**同心番所**：現在は大手三の門の枡形内に移築されているが、濠に架かる下乗橋の手前に同心番所があった。大名達は、この大手三の門で駕籠を降り、同時に家臣の人数も絞られた。残された家臣たちは、ここで主人の下城を待つことになる。



**百人番所**：百人番所は、大手三の門を守った江戸城本丸最大の検問所である。「百人組（鉄砲百人組）」と呼ばれた伊賀組、甲賀組、根来組、廿五騎組の4組が交代で詰め、各組とも与力20人、同心100人が配置され、昼夜を問わず警護に当たった。

**<㊥大手中之門>**江戸城の門の多くは、高麗門と渡櫓門を組み合わせた枡形門ですが、大手中之門は渡櫓門のみです。中之門は、本丸の玄関となる中雀門（ちゅうじゃくもん）と一体となって一つの虎口（曲折して出入りする狭い通路）を形成し、百人番所や大番所とともに、本丸防衛上の重要な役割を果たしていました。



現在は石垣だけが残るが、大手中之門の最大の特徴はその巨大さでしょう。この石垣は、明暦の大火の翌年普請され、元禄大地震で倒壊したが、その後修復されました。また平成17～19年に修復を行い、その際交換した**巨石**が、門の手前に展示されています。

**大番所**：大手中之門の内側に本丸への最後の番所があった。

**<㊦中雀門>**本丸に至る最後の門で、本丸・表御殿の正門にあたるため、「御書院門」とか「玄関前門」とも呼ばれていた。高麗門と渡櫓門の2つの門で枡形を構成し、更に



「書院出櫓」と「書院二重櫓」という2つの櫓で守りを固め、本丸への最

後の砦を築いていた。

左右の袖石垣は、黒ずんで角は丸くなり、表面にもひび割れが目立つ。この石垣は、**明暦大火**で焼け落ちた**天守閣の石垣**を再利用したものらしい。更に文久3年(1863)にも大火で中雀門は焼失している。



### <本丸>

江戸城本丸は、表・中奥・大奥の三つの区域に分かれた本丸御殿が広がり、その奥に天守閣があった。

表：幕府の中央官庁にあたり、儀式や謁見、役人達が執務を行なう場

中奥：将軍の公邸にあたり、将軍の起居や政務を司る場

大奥：将軍の私邸に相当し、御台所や奥女中たちが生活していた

この本丸御殿は、残念ながら現在は芝生広場へと変わっています。

**富士見櫓**：三重の櫓で、万治2年(1659年)に再建されたものが今に残っている。明暦の大火(1667)で焼失した天守に代わって使われ、将軍が両国の花火や品川の海を眺めたとも云われている。



**松の廊下跡**：本丸御殿の大広間から、将軍との対面の場である白書院を繋ぐ、幅4mほどの畳敷きの大廊下。浅野内匠頭が、抜刀禁止の城内・松の廊下にて吉良上野介に斬りつけた。

**富士見多聞**：多聞とは城郭の石垣上に建てられた長屋で、鉄砲や弓矢が納められ、戦時には格子窓から敵を狙い撃つなど、城壁よりも強固な防御施設であった。本丸には15棟の多聞があったが、現在残っているのはこの富士見多聞だけである。



天守閣：家康により建てられた江戸城の天守閣は、その後2代目秀忠、3代目家光の時に建て替えられた。家光の建てた寛永天守閣は地上からの高さは58mで、天守閣の基礎石積みの高さ18mで金色の鯨をいただく外観五層、内部六階の我国最大の天守閣であった。



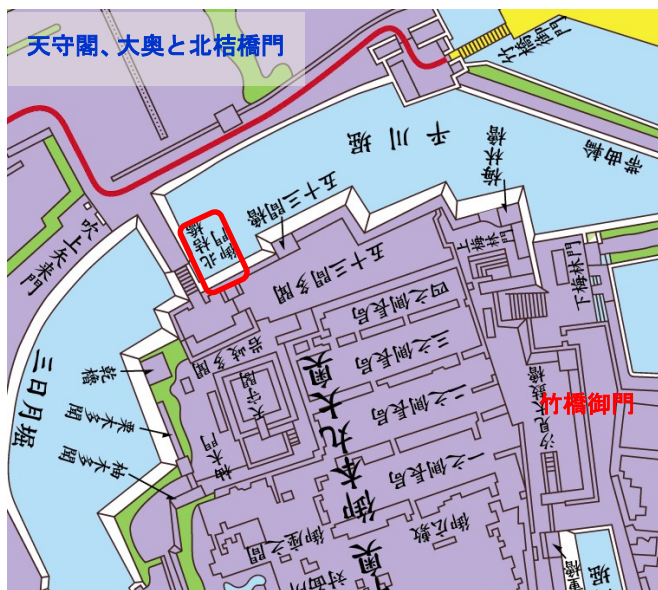
明暦の大火（1657）で焼失したが、会津藩主・保科正之は、「天守はもはや無用の長物、大火の被災者救済と江戸の街の復興が先であろう」と進言し、天守再建は断念された。

現存する天守台は明暦大火後に加賀前田藩により再建された4代目のもので天守台礎石の高さは3mほど低くなっている。現在天守台の二の丸側に見える花崗岩の焼跡は、文久3年（1863）本丸御殿焼失時のものです。明暦の大火で焼跡の残る天守礎石は移設した中雀門で見ることができる。

<㊸北桔(はね)橋門>この北桔橋門は、有事の際に大奥など本丸から、直接外部に通じる搦手門として位置付けられている。天守閣に一番近く、背面にあるので、濠を深く・石垣も高くして堅固な防衛力を持っていた。



平川濠と乾濠を分ける土塁は、石垣の手前で大きく切り込みが入り、その上を小さな橋が渡されている。この橋は有事に備え、橋が跳ね上がる仕組みになっており、通常は跳ね上げた状態だったので、現在も高麗門の柱に、跳ね上げるための金具が残っています。



二の丸庭園：江戸時二の丸には、小堀遠州が造り、三代将軍の徳川家光の命で改修されたと伝えられる庭園がありましたが、長い年月の間にたびたび火災で焼失し、明治以降は荒廃していました。現在の回遊式の庭園は、昭和43年の皇居東御苑の公開の開始に当り、九代将軍徳川家重の時代に作成された庭園の絵図面を参考に造られたものです。

### 帰路

大手町駅（丸ノ内線）～池袋経由

所沢帰着 17:00 頃

### 江戸城三十六見附一覧

2016-5	2017-3	2017-11	2018-11
①浅草橋門	⑥四ツ谷門	⑪山下門	⑳半蔵門
②筋違橋門	⑦喰違見附	⑫数寄屋橋門	㉑外桜田門
③小石川門	⑧赤坂門	⑬鍛冶橋門	㉒日比谷門
④牛込門	⑨虎ノ門	⑭呉服橋門	㉓馬場先門
⑤市ヶ谷門	⑩幸橋門	⑮常盤橋門	㉔西丸の大手門
		⑯神田橋門	㉕西丸の玄関門
		⑰一ツ橋門	㉖坂下門
		⑱平川門	㉗内桜田門
		㉘竹橋門	㉙和田倉門
		㉚雉子橋門	㉛大手門
		㉜清水門	㉝下乗門
		㉞田安門	㉟中之御門
			㊱中雀門
			㊲北桔橋門

\*番号は外側から左巻き渦巻状に順に付いている（番号が大きいものは内側）が、行程の都合により順番通りには行っていない。

\*麴町：元は国府への道で国府路（こうじ）であったが、江戸時代に麴屋が軒を連ねたため。小路が多いという説もある。

\*この文書は主に下記のホームページを元に作りました。

- ・ [リタイア男の暇つぶしー江戸城三十六見附と江戸切絵図](#)
- ・ [大江戸歴史散歩を楽しむ会ー江戸城三十六見附](#)